



# 麻布幼稚園だより 9月号

令和元年9月2日 港区立麻布幼稚園 園長 藤田 智子

## 『 麻布幼稚園の夏 』

園長 藤田 智子

夏季休業期間中、麻布幼稚園では、職員室及び多目的室の移設・改装工事、既存等の幼児トイレ改修工事、全室・廊下の照明のLED入れ替え工事を行いました。照明が変わり、園内がとても明るくなりました。新職員室からは、園庭が良く見渡せます。気持ちの良い環境の中でスタートした2学期、子どもたちの教育活動を充実させるべく力を注いでいきます。

さて、今年も夏季休業期間中に、私たち教員はたくさんの研修を受ける機会をいただきました。教員としての資質・能力向上のための理論や実践を学ぶ研修、指導力の向上に向けた実技的な研修など、様々な内容の研修がありました。それぞれの教員が受けた多くの研修の中から、特に印象深かった研修を1つずつ挙げてもらいました。

波瓦副園長…『副園長1年目ということで、新任管理職研修を受講しました。内容としては「特別区制度理解」に始まり、「メンタルヘルス」「クレーム対応」「人材育成に活かすコーチング」「園務効率化の工夫」等です。研修を受けて改めて研修内容が多岐にわたることに驚くとともに、副園長として様々な能力や役割が求められていることを実感しました。研修を受けるたびに力不足を感じ落ち込むことばかりでしたが、その中で「コーチング」講師の方の話が心に響きました。「足りない、できないと考えるのではなく、今もっている力をあと〇%アップするには、何をしたらいいのかを考えることが大事。あなたは今、何から始めますか?」というものです。一步でも自らの理想とする副園長に近付くため、意識をかえる・行動をかえる・臆せずチャレンジすることから始めようと思います。』

遠藤教諭…『東京都公立幼稚園・こども園の教員対象の夏季研修会で、幼児の感情表出への理解について、研修を受けました。「感情」とは、生きていくために、人と関わるために願いを伝えるためのものであること、どんな感情も大切にしたい。ただ、伝え方を学んでいく必要がある。その為に、教師の大切にすべきことは、「安心していられる場所を作る」「不安・緊張・怒りなどの不快な感情を言葉で表現できるように支える」ということを改めて学びました。今まで以上に、子どもたちの表情や行動から気持ちを読み取り、寄り添う保育をしていきたいと思います。』

川島教諭…『夏の研修で、災害にあったときの対処法を学びました。自分の命を守るには、濡れずに逃げる。濡れると低体温になることで体が衰弱し、命の危険にさらされることがあるからだそうです。寒い時には中に発汗するための素材（アルミシートや新聞でもOK）を身に付け風が入らないようにし、暑い時には大きめの洋服を身に付け空気がたくさん入るように工夫すること、「水・風・空気」のコントロール術を知り、体への負担を最小限に抑え、自分の命を守りましょう。』

水口教諭…『東京都公立幼稚園・こども園の夏季研修会で、「心と体を育むキッズヨガ」と「脳の発達から見る子どもの育ち」の講習に参加しました。その中で共通して学んだことは、子どもたちが自分の姿や気持ちを意識し気付けるように導き、肯定的にポジティブに捉えられるような「コミュニケーション」を心掛けることの大切さでした。この学びを大事に2学期も子どもたちと元気に楽しくイキイキと笑顔で過ごしていきたいと思います。』

四方教諭…『「こども療育パオ」での実習に参加しました。実習では、日々通園のクラスに入り、実際に子どもたちと関わりながら療育の方法を体験しました。子どもたちが分かりやすいように写真を使って次の行動を伝えたり、一人ひとりに合わせて声掛けや援助をしたりする支援の仕方を学びました。子どもたちが様々な経験をするための工夫を学び、充実した実習になりました。それぞれの幼児に合わせた指導の工夫につなげていきたいと思います。』

そして、私は、東京大学大学院教育学研究科 教授 遠藤利彦先生による『乳幼児期に育てたいもの—アタッチメントと非認知的な心の発達—』をテーマとした研修を挙げたいと思います。アタッチメントとは、恐怖管理・安全確保のための心の仕組み（危機に際して特定他者に「くっつく」ことを通して定常状態に戻ろうとする）のことですが、対象の人々を数十年に渡って調べ続けていく研究の中で、アタッチメントが脳の発達や心の発達に大きな影響を与えることが明らかになったというのを学びました。不安や恐怖を感じた時、子どもは安心できる基地である身近な大人のところに駆け込みます。この安心な基地で受け止めてもらうことで感情を回復し、ここを拠点として安心してまた探索に出かけていくことができます。人生の始まりにおいて一番初めに身に付けておくべき心の「土台」である、いざとなったらいつでも「くっつける」という感覚を子どもがもてる関わりや受け止めを積み重ねていくことの大切さを教えていただきました。自分を大切に自分を高めようとする力、自分の行動をコントロールできる心、粘り強く頑張り続ける力、自分で決めてしっかり実行できる力など、「自己にかかわる心の性質」の根本はアタッチメントに関係しているそうです。今、幼児期の教育の重要性が様々な場面で発信されていますが、追跡調査の結果からも、質の高い保育を受けて育った子どもたちは、よりたくましく、より健やかに、より賢く生きていく力を身に付けていることが明らかになったということでした。お話の中にあった「高度な学校教育も確かな「土台」の上に積み上げられてこそ益をなす」という言葉をしっかりと心に刻み、幼児教育の大切さを常に意識しながら麻布幼稚園の教育に尽力していきたいと改めて感じた研修でした。

それぞれの教員の学びを今後の教育活動に生かし、実り多い2学期となるよう、教職員みんなで力を合わせて取り組んでまいります。9月の麻布幼稚園も、どうぞよろしくお願いいたします。